

第9回 仙台バッハ・アカデミー

# Bach Akademie Sendai 1994

歡びにあふれる音楽 そして真に芸術的な音楽教育

主催／仙台バッハ・アカデミー協会  
協賛／財団法人仙台市市民文化事業団

セルコホーム 株式会社

後援／宮城県

仙台市

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

財団法人宮城県文化振興財団

ドイツ大使館

東京ドイツ文化センター

河北新報社

朝日新聞仙台支局

毎日新聞社仙台支局

読売新聞社

日本経済新聞社

産経新聞社仙台総局

NHK仙台放送局

東北放送

仙台放送

ミヤギテレビ

東日本放送

エフエム仙台

仙台日独協会

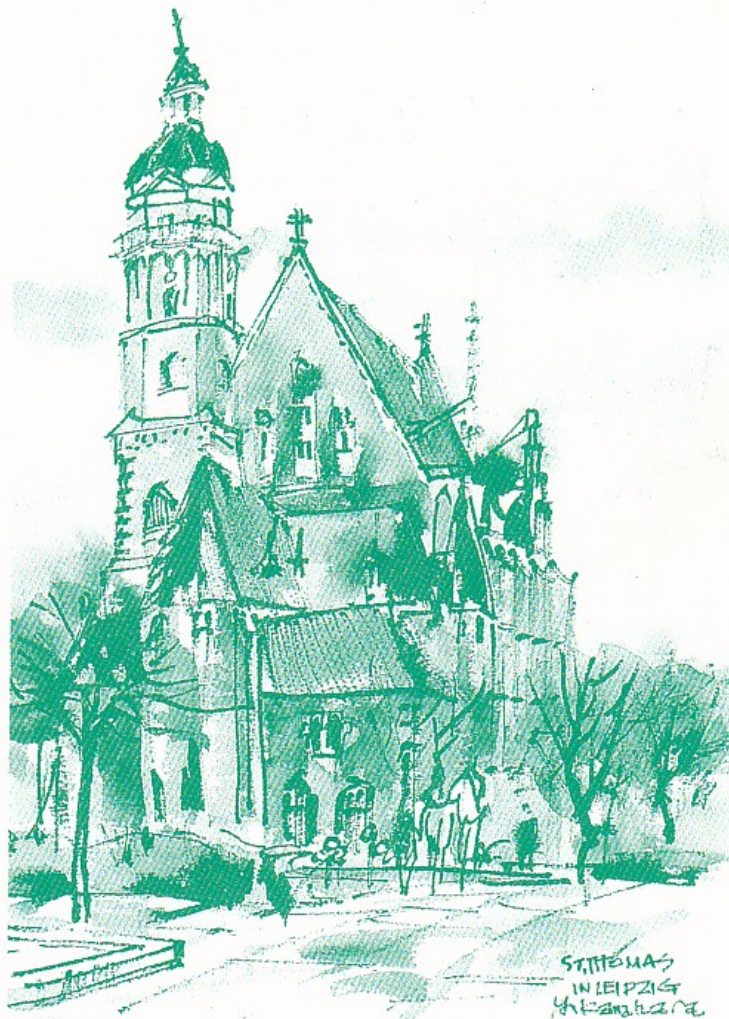
ヤマハ仙台店

カワイ楽器仙台ショップ

三立

宮城学院女子大学音楽科

尚絅女学院短期大学



Bach  
Akademie  
Sendai  
1994

第6回 **セルコホーム** 定例クラシックコンサート

## J. Sバッハ教会カンタータと協奏曲の夕べ

7/25〔月〕開演6:30PM  
電力ホール(仙台)

### I. カンタータ199番 〈我が心は血の海に浮かぶ〉

**BWV199** Mein Herz Schwimmt im Blut

(編成 sop独唱、ob、弦、通奏低音)

1. レチタティフ
2. アリア
3. レチタティフ
4. アリア
5. レチタティフ
6. コラール付アリア
7. レチタティフ
8. アリア

ソプラノ	カトリン・グラーフ (I、III)
アルト	中島 豊子 (III)
テノール	佐藤 淳一 (III)
バス	小原 一穂 (III)
ヴァイオリン	森下 幸路 (II)
フルート	山元 康生 (II)
チェンバロ	川崎 操 (II)
合唱	盛岡バッハ・カンタータ・フェライン (III)

### II. ブランデンブルグ協奏曲第5番

**BWV1050** Brandenburg Concerto Nr. 5

(編成 sol vln、fl、cemb、Tutti 弦+通奏低音)

- 第1楽章 アレグロ
- 第2楽章 アフエットウオーゾ
- 第3楽章 アレグロ

管弦楽	仙台フィルのメンバーによるバッハ・アンサンブル
指揮	佐々木正利

### III. カンタータ147 〈心と口と行いと生活で〉

**BWV147** Herz und Mund und Tat und Leben

(編成 S、A、T、B、合唱、Trp、2ob、obダモーレ、obダカッチャ、弦、通奏低音)

#### 第I部

1. 合唱
2. レチタティフ (Ten)
3. アリア (Alt)
4. レチタティフ (Bas)
5. アリア (Sop)
6. コラール合唱

#### 第II部

7. アリア (Ten)
8. レチタティフ (Alt)
9. アリア (Bas)
10. コラール合唱



カトリン・グラーフ Kathrin Graf ソプラノ Sopran

チューリッヒ生まれ。母親の指導を受けて声楽をはじめ。ジュネーブのフニープの許でヴァイオリンを修めた後、フランクフルトで声楽の勉強に専心、チューリッヒのゲービラーの許で卒業試験修了。ベルリンのオペラ科、グリュンマーとディーツの許でも学ぶ。1972年スイス音楽家連盟の独唱者賞受賞。以後、国際的な演奏活動を行っている。(ルツェルン音楽祭、チューリッヒ、パリ、ブリュッセル、バルセロナ、トリノ等) また日本とカナダに演奏旅行も行っている。

カトリン・グラーフは、バロックから現代曲に至るまでの幅広いレパートリーを持っている。彼女は数多くの現代曲の初演を行っており、その功により1983年、B・A・Tスイス演奏家賞を授かる。彼女は、オラトリオ、オーケストラ曲、オペラ、室内楽曲、リードを歌う。スイス人の作曲家ベッシュとは、常時リーダー・アーベントを共演している。数多くのラジオ、レコード録音(リングとバッハのカンタータ、兄のフルート奏者、ペーター・ルカス・グラーフ等と共に)では、異なる時代様式に対する彼女の確かな解釈が刻されている。1972年から79年まで、彼女はルツェルン音楽祭でグリュンマーの助手を勤め、以後、チューリッヒの音楽院にて声楽を教授、現在に至る。1988年以来仙台バッハ・アカデミー講師として来仙。既に3回のリーダー・アーベント、2回のオーケストラプログラムを歌っている。



川崎 操 Misao Kawasaki ピアノ Klavier

愛媛県松山市生まれ。4歳よりピアノを学ぶ。東京芸術大学楽理科にて音楽理論を修めるかたわら、伴奏にも意欲を燃やし卒業後同校リード科助手となる。

1970年西ドイツに留学、ピアノをシルデ教授に、室内楽と伴奏法をウェイセンボルン教授に師事。在学中にフルートのマイゼン教授の伴奏者に選ばれて、日本公演とレコード録音を行った。1974年同校を最優秀の成績で卒業。西独バダーボルン大学のピアノ科、同国立ミュンスター音楽大学にてドイツ・リード解釈法、室内楽伴奏法の講師を勤める。フィレンツェ、ベオグラード、プラハ、ミュンヘンのコンクールの伴奏や、シュトゥットガルトのバッハアカデミーの伴奏等、西ドイツを本拠としてヨーロッパ各地で活躍する。1981年にはフルートのグラーフ教授の日本公演の伴奏者をつとめる。

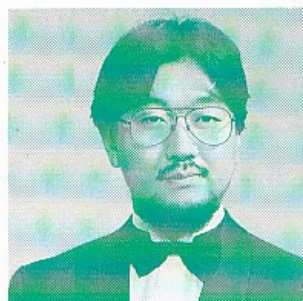
1980年にベルリン、そして1982年にはカッセルで開かれた、フィッシャーディスカウのリード講習会の伴奏者に選ばれ、ディスカウより、「大変に才能のある伴奏者であると共に、実力のある音楽家である」と賛辞を受ける。ソリストとしてもニューヨーク、西ドイツ各地、ニュージーランド、韓国などでリサイタルを行う。

今日では、日本から出た国際ピアニストの一人に数えられている。1988年以来仙台バッハ・アカデミー講師として来仙。リーダー・アーベント伴奏者としてはもとより、ソロリサイタル、コンチェルトプログラム、室内楽プログラム等数多くのコンサートに活躍されてきた。



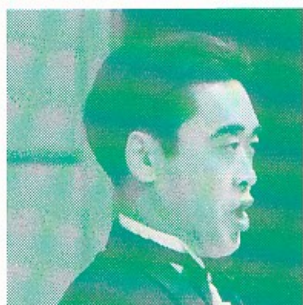
中島 豊子 Toyoko Nakajima アルト Alt

宮城学院女子大学音楽科卒業。東京音楽大学研究科卒業。読売新人演奏会出演。仙台オペラ協会公演、歌劇「ヘンゼルとグレーテル」の母親役、創作オペラ「鳴砂」の老婆役として出演。仙台バッハアカデミーにおいて、J. S. バッハ「ヨハネ受難曲」のアルトソロを務める。第5回日本声楽コンクール入選、第67回日演連推薦新人演奏会出演、仙台フィルと共演。第13回ソレイユ新人オーディション優秀賞。鈴木和、滝沢三重子の各氏に師事。現在、二期会オペラスタジオ第40期研究生。



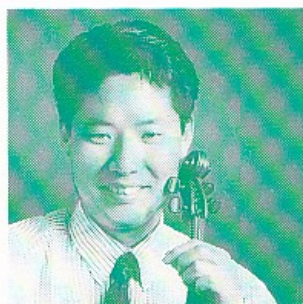
佐藤 淳一 Junichi Sato テノール Tenor

東京芸術大学声楽科卒業、同大学院音楽研究科独唱専攻修了。藤村晃一、酒井弘、吉岡巖の諸氏に師事。1990～91年、ミュンヘンへ留学。アダルベルト・クラウス氏の許で宗教音楽を中心に研鑽を重む。また、ハンス・マルティン・シュナイト氏に特別レッスンを受ける。1986、87、92年リサイタル開催。その他多くのジョイントコンサート・発表会出演。現在まで主に、バッハ、ヘンデル、ハイドンなどの宗教曲のソリストとして活躍している。在独中もバッハの「カンタータ」、ハイドンの「天地創造」に出演し絶賛される。オペラでは、仙台オペラ協会主催「オペラのけいこ」「売られた花嫁」「カルメン」などに出演。また男声合唱団クロスロードシンガーズのコンサートマスターとして日本各地で公演をし、合唱団のヴォイストレーナー、指揮者としても活躍している。現在尚絅女学院短期大学助教授。クロスロードシンガーズコンサートマスター。



小原 一穂 Kazuho Obara バス Bass

岩手大学教育学部音楽科卒業。東京学芸大学大学院修士課程修了。森肇子、今関由紀子、移川澄也、中村義春、佐々木正利、P. フッテンロッハーの各氏に師事。1985年、90～91年に渡独。1986年、1989年、H・クレッチマール公開レッスン受講。1987～88年、H・リリングが芸術監督を務めるバッハアカデミーに参加、修了演奏会に出演。ソリストとして第九、メサイア、クリスマス・オラトリオ、ヨハネ受難曲を始め、ミサ曲、レクイエム等を大学及び一般合唱団と多数共演。岩手県民オペラ（ラ・ボエーム）、盛岡音楽祭、仙台NTTコンサート等出演。盛岡楽友協会会員。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、コンサート・マスター。グルッペ・ベッヒライン会員。東京バロック・ゾリステン指揮者。現在、岩手大学附属小学校教諭。



森下 幸路 Koji Morishita ヴァイオリン Geige

桐朋学園大学音楽学部を経て、米国シンシナティ大学において特別奨学生として、ドロシー・ディレー女史に学び、同大学において最優秀賞を受賞。内外のアーティストやオーケストラとの共演も多い。92年まで安田謙一郎弦楽四重奏団のヴァイオリン奏者を務め、現在、サイトウキネン・オーケストラのメンバー。また、94年2月より仙台フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに就任する。NHK/FMへの出演も多く、ソリスト室内楽奏者として幅広い活動をしている他、現代音楽の新作初演にも意欲的に取り組んでいる。「ファンタジーに溢れた演奏」（音楽の友）と評され、美音と情熱に満ちた演奏には定評がある。これまでヴァイオリンを田中千香士、小林健次、D. ディレー、江藤俊哉・アンジェラ夫妻の各氏に、室内楽を数住岸子、ラ・サール弦楽四重奏団の各氏に師事した。



山元 康生 Yasuo Yamamoto フルート Flöte

1957年、福岡県生まれ。11歳でフルートを始め、1976年、東京芸術大学音楽科音楽学部入学。

1980年、同大学卒業後、6月渡米。奨学金を得てジュリアス・ベーカー氏の講習会に参加。ヘインズ賞に選ばれ、マスタークラスコンサートに出演。2ヵ月間にわたってベーカー氏の指導を受ける。

1982年、宮城フィルハーモニー管弦楽団（現、仙台フィル）に入団。

1988年7、8月フランスにてアラン・マリオン、レイモン・ギオー、工藤重典の各氏に指導を受ける。

1991年9月、再度渡仏し、パリ・エコールノルマル音楽院に1年間学ぶ。

1983年、85年、89年、91年、93年仙台市戦災復興記念館にてリサイタルを行う。

フルートを峰岸壮一、小泉浩、小泉剛、工藤重典、レイモン・ギオーの各氏に師事。室内楽を中川良平氏に師事。

現在、宮城学院女子大学音楽科、尚絅女学院短期大学、各非常勤講師。



佐々木正利 Masatoshi Sasaki 指揮者 Dirigent

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士並びに博士過程修了。

須賀靖元、畑中良輔、小林道夫、森明彦、服部幸三の各氏等に師事。リート、宗教音楽を専門とし、特にJ. S. バッハの声楽曲に造詣を示す。芸大メサイア、マタイ公演にてその力量を高く評価され楽壇にデビュー。1979年シュトゥットガルトに渡り、L. フィッシャー教授に師事し、1980年第6回ライプツィヒ国際バッハコンクール声楽部門第5位入賞。同年より1982年までデットモルト北西ドイツ音楽大学に学び、H. クレッチマル教授に師事。

1980年ウィーン楽友協会ホールに於けるマタイ受難曲においては「若き日のペーター・シュライヤー」と新聞各紙で絶賛されるなど、ヨーロッパ各地で一流オーケストラ、合唱団と度々共演。

帰国後もライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ベルリン交響楽団、N響、読響、新日フィルなど内外の著名オーケストラの演奏会に多数出演し、K. マズア、H. シュタイン、H. プロムシュテット、小沢征爾、H. リリング、H. ヴィンシャーマンら世界的指揮者と共演。

1985年ザルツブルグ音楽祭に招かれ、R. バーダー指揮のベルリン聖ヘドヴィヒ聖歌隊、ザルツブルグ・モーツアルテウム管弦楽団とバッハ、モーツァルトを共演、また1990年にはH. J. ロッチュ指揮ライプツィヒ聖トマス教会聖歌隊、ゲヴァントハウス管弦楽団とマタイ受難曲を共演するなど世界の檣舞台で高く評価される。

合唱指揮者としても盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団を率いての二度に亘るドイツ演奏旅行において、「シュッツ、バッハの世界的担い手」と本場ドイツの新聞批評で絶賛されると共に、1991年、1993年にはH. ヴィンシャーマン率いるドイツ・バッハ・ゾリステンとカンタータ、受難曲を共演。特に1993年のマタイ受難曲においては「我が国におけるマタイ演奏史上、最も特筆されるべき演奏」との評価を受けている。

現在、岩手大学教育学部音楽科教授。二期会会員。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン仙台宗教音楽合唱団、岡山バッハ・カンタータ教会、岩手大学合唱団、東北大学混声合唱団各常任指揮者。



## 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

Morioka Bach-Kantaten-Verein

1977年 J. S. バッハのカンタータを研究・演奏する目的で発足。以来、一貫してバッハ作品を中心としたドイツ・バロック合唱曲の研究・演奏を行っている。その演奏が、1985年ドイツにおいて「我々のバッハ、シュッツを、たとえ

我々が演奏できなくなったとしても、この日本の合唱団が立派にその後継者として実践を果たしてくれるに違いない」と現地新聞批評にて絶賛され、また1991年渡独の際にも、再び「作品の語感、音、そして精神の完熟」という最大級の賛辞を受けるに至るまでには、常任指揮者、佐々木正利のドイツ・バロック音楽に対する卓越した見識に基づく、熱意溢れる指導の積み重ねがあった。佐々木は超一流のエヴァンゲリストと評価されるその発音、語感、様式感を、もう一つのライフワークである合唱団の育成に注ぎ込み、その結果「〈言葉が生きる〉と〈音楽が生きる〉とは歌の世界では同義語である」というカンタータ・フェラインの音楽信条が演奏上の身上となるに至ったのである。これまでの主たる活動としては、先の2回のドイツ演奏旅行での「メサイア」「クリスマス・オラトリオ」等の演奏を始め、「マタイ」「ヨハネ」両受難曲、「ロ短調ミサ曲」等の大曲や数多くのカンタータ、またガブリエーリ、シュッツ、ブックステフデ、メンデルスゾーン等の宗教曲など多岐にわたって演奏し、いずれも批評家、愛好家より好評を博している。また1993年のヴィンシャーマンとの「マタイ受難曲」の秀演を受けて、1995年にはドイツ・バッハゾリステンの「マタイ」欧州演奏旅行にて共演合唱団として出演が決まっている。

### 仙台フィルのメンバーによるバッハアンサンブル

Violin	姉齒 道子 遠藤 留愛 熊谷 洋子 梶原とと子 (コンサートマスター) 森下 幸路 村上亜紀子 ネストル・ロドリゲス	Oboe Oboe da Caccia Oboe d' amore Flute Fagot Tramper	木立 至 横山 睦 山本 康生 水野 一英 持田 真
Viola	梅田 昌子 山口 泉		
Violoncello	石井 忠彦 塚野 淳一		
Contra Bass	河野 昭三		